

2011年度総会の報告

三嶋秀恒（松戸市）

開催日：2011年2月11日（金・祝日）

場 所：千葉市生涯学習センター

出席者：71名、委任者数：165名 計236名

特別講演

13：00～14：00

「自然を守る科学と政治」～北総の里山を守る市民・行政・科学者の協働～

講師：東邦大学理学部生物学科教授 長谷川雅美氏（当会 会員）

総会

14：20～16：30

議題：10年度行事報告・会計報告、11年度行事・予算案提案、役員選出

議長：小沢 武（四街道市）、書記：岡田義久（佐倉市）・小川洋子（八千代市）

*特別企画：自然観察会「千葉公園の歴史と自然」 9：30～12：00

担当 木下順次・盛一昭代 参加者数：20名

*懇親会：千葉市生涯学習センター内ベネチアン 16：30～18：30

担当 田口信一郎・盛一昭代 参加者数：51名

生憎の大雪の予報でしたが、曇まじりの小降り、傘をさしながら千葉公園の自然観察会を開催できました。公園の歴史では、①千葉公園としてのあゆみ（戦後）、②鉄道連隊と荒木大尉（大正～戦前）、③綿打池と弁天さま（江戸～明治）のテーマで鉄道連隊の名残りなどを見学。自然観察は「さまざまな樹木」をテーマに、公園内で一番大きなクスノキを測定、いろいろな松ぼっくり探しをしました。

特別講演は、長谷川教授のPPTで開始されました。生物多様性保全の国際的動きと国内・県内の動きの説明から始まり、これは「生物の多様性を保全することにより、人間の福利の維持と向上をめざす」こととなります。ニホンアカガエルは水田の耕作放棄で産卵場所がなくなったため、絶滅寸前。大草谷津田いきものの里は谷津田保全のモデル事業（人と自然が共生する生き物の宝庫）として整備されてきました。良好な谷津田の自然が存在している場所に、農の営みとともに多様な生態系が維持されていることです。

これからの課題として、環境自治のため科学では、自然資産の賢い運用が必要であり、生態系サービスの総合的経済評価を行うことが重要です。土地開発や緑地の分断により、生息地が減少し、生態系ピラミッドが変化し、ヒートアイランド現象が増加している。治水のための河川改修で、水生生物が激減。昆虫による作物の花粉媒介は重要な生態系サービスですが、里山の樹林と草原が減少し、ハチやアブが少なくなって、梨などの受粉作業を人間が行っています。生態系サービスの経済的効果分析すると、宅地開発で得た利益は、洪水防止機能の補填や樹林地保護の費用で帳消しになります。生物多様性保全と生活を守るための地域間競争が市民の自発的活動を促し、地域に合った施策の適用・実現を上奏（地域から県や国への働きかけ）することが必要となります。

最後に、北総の里山：生命をつなぐ緑のベルトや市民の活動ネットワークの説明があり、「自然観察から始まる自然保護」の締め括りででした。

総会は、小西代表からの挨拶の後、小沢さんが議長、岡田さんと小川さんが書記に選出されて、議事進行しました。行事報告は小西代表からPPTを使用して詳細に分りやすく発表があり、会計報告は浦部さん、会計監査報告は嶋野さんから発表があり、承認されました。行事案は、昭和の森観察会・東葛しぜん観察会・受託事業等・SSN 関連・研修会、等および予算案の提案で、それぞれの担当役員からの熱のこもった説明があり、承認されました。会員数は前年度とほぼ同じですが、収入減となっており、今後の運営を危惧される発言がありましたが、官公庁の期間が4～3月でズレがあるため、受託金・報奨金が低く抑えてあるとの説明でした。